

令和元年度天皇杯受賞者受賞理由概要 むらづくり部門

進取の精神で取り組むむらづくり

○集団等の名称 伊江村字西江上区（代表 知念 邦夫）

○所在地 沖縄県国頭郡伊江村

○受賞理由

・地域の沿革と概要

伊江村は、沖縄本島の本部半島から北西9kmの洋上に位置する周囲22.4kmの島で、1島1村の農村である。産業は第1次産業が主体であり、さとうきびや花き、葉たばこ、野菜、畜産といった農業が営まれている。気候は亜熱帯性であり年間を通じて植物等の育成には好条件であるが、雨水の多くは地下に浸透し海へ流れ出てしまい、水不足に悩まされてきた歴史がある。

・むらづくり組織の概要

西江上区の運営は行政を行う区行政委員会を中心に、老人会、婦人会、青年会、子供会、OB会が参画している。また、西江上区が運営・管理する西部かん水組合や集落内の排水路・道路の清掃を行う伊江地域資源保全の会と連携しむらづくりに取り組んでいる。

・むらづくりの取組概要

(1) 農業生産面

- ① 昭和50年代前半まで、主要な産業が農業に限られる状況で農業生産額が低迷し、過疎化が急速に進行する中、若者が減少し地域の活力が低下するとの危機感があった。そこで、儲かる農業、若者に魅力ある農業を目指し、かんがい農業を導入するために西江上区民が話し合い、水確保の事業の推進等を区民が一丸となって取り組んだ。昭和55年には西部かん水組合を発足し、伊江村でのかんがい農業を先駆けて行った。西江上区の農家所得が増加したことにより、かんがい農業の重要性を村内に浸透させるに至った。
- ② 現在は、担い手が増え、地域の牽引役となってIoTなど新技術導入も図られている。また、若い農業者が中心となり伊江村青年農業交流会、女性経営参画の促進のための農業簿記経営講座などを開催し、経営の向上を目指した担い手育成に取り組んでいる。
- ③ 農業振興が図られたことにより、村内で生産する肉用牛やラム酒、黒糖やピーナツの加工品等、数々の特産品が作られるようになり、6次産業化にもつながっている。

(2) 生活・環境整備面

- ① 耕土流出等の環境への影響を未然に防止するため、地域を挙げて環境保全に取り組む、併せて子供達への農業体験活動も実施している。農業生産の大切さを次代へつなぐ活動の中、地域住民が更に一体となり、農業農村の環境保全、良好なアメニティー形成を進めている。
- ② 西江上区において、平成15年から始まった修学旅行を主とした民泊は、当初は年間3校、300人余りの受入れであったが、現在では、村全体に拡がり、年間300校、4万人の受入れまで拡大した。また、修学旅行生が地域住民と共同で海岸や史跡の清掃活動に取り組むなど、都市と村の交流における農村の魅力を発信している。

・他地域への普及性と今後の発展方向

地域の活性化のために地域住民が一丸となって農業振興を図ることで、安定した農業所得の確保、特産品の開発のほか都市農村交流活動等に取り組んでいる事例であり、今後も取り組みの継続が期待できる。

離島においていち早く農業の高付加価値化に着目し、地域住民が地域の活性化を目指し進取の精神をもって主体的に活動する取り組みは、全国におけるむらづくりのモデル事例になり得るものである。